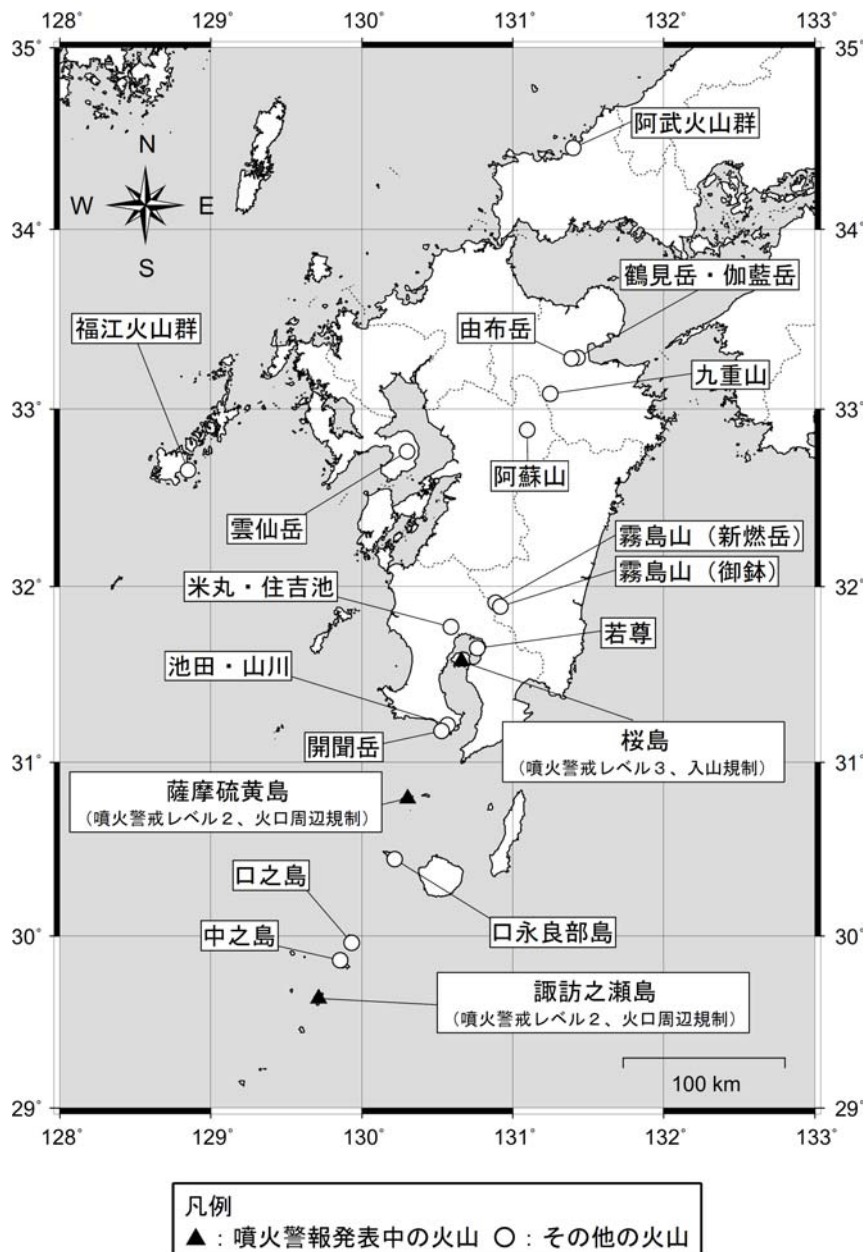


管内月間火山概況（平成 21 年 8 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（8月31日現在）

火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）	： 桜島
火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）	： 薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）	： 九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）、口永良部島
噴火予報（平常）	： 阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、 福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、 開聞岳、口之島、中之島



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 21 年 9 月分）は平成 21 年 10 月 7 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、大分県、鹿児島県及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

口永良部島では、4 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（平常）に引き下げ、火口周辺警報を解除しました。

その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

中岳第一火口では、南側火口壁の噴気孔で火炎現象及び赤熱現象を引き続き観測しました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出がみられることから、火口周辺では火山灰等の噴出に警戒が必要です。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内及び火口の外の西側斜面では引き続き噴気がみられることから、火口周辺では火山灰等の噴出に警戒が必要です。

霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

昭和火口では噴火が 71 回発生し、そのうち、53 回が爆発的噴火でした。4 日 21 時 25 分、27 日 02 時 59 分及び 28 日 20 時 51 分の爆発的噴火では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が 4 合目（昭和火口から 800～1,300m）まで達しました。南岳山頂火口ではごく小規模な噴火が時々発生しました。

火山性地震は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も観測されていません。

昭和火口の噴火活動は、2006 年 6 月の噴火以降、長期的には次第に活発化する傾向がみられますので今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

昭和火口及び南岳山頂火口から 2 km 程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高まった状態で経過しました。火山性地震はやや多い状態が続いています。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。

口永良部島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕 ←4日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）を引下げ

GPS 連続観測では、新岳火口浅部の膨張を示す変化は認められなくなりました。火山性微動は観測されませんでした。また、火山性地震も少ない状態が続いています。

これらのことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断して、4 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（平常）に引き下げ、火口周辺警報を解除しました。

新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内では噴気や火山ガスの噴出がみられることから、火口周辺では火山灰等の噴出に警戒が必要です。

諏訪之瀬島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

御岳^{おたけ}火口では、爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生しました。27 日 22 時 00 分頃には、噴火に伴う振幅の大きな火山性微動が発生しました。28 日に京都大学及び気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力を得て合同で行った上空からの観測では、御岳火口の北西側に多量の火山灰が積もっているのを確認しました。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。